

総合長期計画策定のための
まちづくり政策提言

平成23年10月

青梅市

目 次

まちづくり政策提言実施概要	1
提出された意見について	3
団体アンケートのとりまとめ	19

まちづくり政策提言実施概要

以下の要領でまちづくり政策提言を平成23年8月から9月にかけて受け付けました。

市民の皆様には、日頃から市政に対し格別のご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、このたび青梅市では、新しいまちづくりを進めるための指針となる**青梅市第6次総合長期計画**(平成25年度～平成34年度の10年間の計画)を策定することになりました。

本政策提言は、この新しい総合長期計画の策定にあたり、市民の皆様のご意見をお聞かせいただき、これからのまちづくりを考えるための貴重な資料とすることを目的に実施するもので、平成23年 月から 月まで実施します。

この提言は、計画策定の目的以外に利用することはなく、ご迷惑をおかけすることは絶対にありません。

お忙しいところ恐縮ですが、今後のまちづくりを、皆様とともに考えていきたいと思っておりますので、目的、趣旨をご理解のうえ、率直なご意見をお聞かせください。

平成23年 月

青梅市長

提言書ご記入にあたってのお願い

1. 提言用紙にご意見やお考えを記入してください。
2. 記入は、すべて記述式となっておりますので、枠内に入る程度でご自由に記入してください。
3. ご記入いただいた提言用紙は、下記アドレスに送信いただくか、直接市の各施設に設置してある提言箱に投函してください。
4. この提言書についてのお問い合わせは、下記にお願いします。

青梅市役所 部 課(担当:)

電話: - -

FAX: - -

E-mail:

提出された意見について

全体で 24 件の意見の提出がありました。その内容は次のとおりです。

(1)

【青梅市の 10 年後についてどのような将来像を描きますか。】

安心して子どもを育てられる町

【将来像を実現するために必要な施策や事業】

市内の幼稚園、保育園、小中学校で、給食の食材について産地公開を義務づけること。

より抜きでもよいので、市として、給食の食材の測定を行うこと。

家庭菜園の収穫物や農協などに持ち込まれる収穫物のチェックができるよう、市としてシンチレーションの測定器(ゲルマニウム半導体検出器)を購入、測定施設を設置すること。(杉並区でも補正予算で購入費を計上することになりました)

子どもが集まる(遊ぶ)場所の土壌測定を行い、その数値を発表すること。(特に公園の砂場など。)

また高い数値が出た場合には、市民と協力して除染活動を行うこと。

日の出の二ツ塚処分場に放射性物質を含んだ灰を受け入れることを、青梅市として反対すること。

(2)

【青梅市の 10 年後についてどのような将来像を描きますか。】

「自然と人が共生し、再生できる都市」

【将来像を実現するために必要な施策や事業】

「青梅駅に緑の庭園オアシスを！！

木陰のある安らぎの街づくりへ」

大いなる自然に恵まれ、多くの優れた文化人を生み出した歴史ある青梅の街。その青梅の自然環境の良さを最大限に引き出すこと。唯一の欠点は、山は多いが人の歩く所に緑が少ないこと。青梅駅は、地元にとっても観光客にとっても、大事な青梅の顔である。駅前に親子連れや高齢者が歩きながらホッと休める木陰があったら、どんなに気持ちがいいだろう。安らぐだろう。

青梅駅前に大きな緑の公園オアシスを作りたい。

地元の人が安らぎ、都内からの観光客がホッと癒やされるような空間を
することで、もっと人が集まり、活気が出て、街全体も再生されていく
だろう。これからの時代は自分たちの手で、今ある資源を生かした街
づくりを始める、最後のチャンスだと思います。

(3)

【青梅市の 10 年後についてどのような将来像を描きますか。】

高齢者の増加に伴い、家族が心配しないで高齢者が生活できる公的施設
(中間保健施設) を増設してほしい。

【将来像を実現するために必要な施策や事業】

他市に先がけて積極的な施設政策を立案願いたい。

法令等を打破した考え方をしていかなないと現制度から抜けだせない。

(4)

【青梅市の 10 年後についてどのような将来像を描きますか。】

わが『ふる里』と呼ぶ心の安らぐ街

若い時は、都心で仕事・子育てをし、年をとれば、故郷と呼べる街の青梅
にて、心のよりどころの持てる体制の街で、心安らかにすごせる街：生活
基地にしたい。

【将来像を実現するために必要な施策や事業】

1. 街づくり

山・川遊びができる場所が多いので、自然を生かし親子の絆ができるよう
に整備する。

山登りも、ハイキングコースの道標等を整備し、気軽に親しめるようにする。

絆づくりには欠かせない自治活動を推進する (コミュニケーションの醸
成)

温故知新ができる行事・祭りを伝承でき、参加しやすい体制づくりを進め
る。

高齢者 (長寿) を考慮した語り部等の人的交流を増やす。

2. 政策作り

都心への通勤・持ち家制度を推進する体制を造り、違法駐車をなくした治安

整備。

都心での（制限付き住居持ち家支援）持ち家制度と、市民税積立制度の予算化。

若い時には、都心での活動拠点を提供し、子どもが成人したときは、「ふる里」青梅に定住できるような支援・制度作りを推進する。

心の通い合う「ホスピス」がそこにあるような街づくり。

休日には、「ふる里」への里帰りができ、「ふる里」を感じる施策として、上記〔街づくり〕で青梅在住の定着で街の発展に資する。

駐車場整備と駐車違反取締りを徹底し、治安の安定を図る取り組みを推進する。（駐車違反が増え、これが原因で市民の「少くくはいいかという心」で治安が崩れます。）

（ 5 ）

【青梅市の10年後についてどのような将来像を描きますか。】

恵まれた緑や水、自然を守る町

【将来像を実現するために必要な施策や事業】

市の整備などに、今後、太陽光発電など自然エネルギーを取り入れたものを積極的に使用してほしい。

（ 6 ）

【青梅市の10年後についてどのような将来像を描きますか。】

子育てのしやすい街。自分たちの街だと実感できるまち。自然豊かな街。

【将来像を実現するために必要な施策や事業】

まちづくりは人づくり。子どもと大人が一緒の地域で生きていることを実感できる取り組みを進めるために、文化活動、人の力が集まるまつりなどの取り組みを支援してほしい。

文化芸術活動をより行えるような、施設が欲しい。新しいホール。大きなホールと小さいホールなど。

子ども達が身近な地域での放課後活動が保証されるよう、自治会館に専門スタッフをおくなど、子どもの成長を学校以外でも見守れる場が欲しい。

(7)

【青梅市の 10 年後についてどのような将来像を描きますか。】

放射能防御宣言都市（放射能対策を積極的に行う都市）

【将来像を実現するために必要な施策や事業】

年間 1 mSV 以下を宣言する。（原子力安全保安院の報告資料によると福島原発事故により、大気中には ・ ・ 線の核種が放出されており、中でも 線核種が多いことから、 線のみでなく、 線も含めた対策が必要と考える。）

具体的な対策として、

市内全ての保育園・幼稚園・小中学校等での定期的な空間線量・土壌測定を行い、結果を HP や広報で市民へ公表し、必要時は除染を行う。

保育園・幼稚園・小中学校等で提供される給食食材の産地公表を行うことを統一し、週 1 回程度抜き打ちで検査を実施する。その際 4 Bq/kg（ドイツ放射線防護協会推奨数値）を超えるものがあった場合は提供者に注意勧告を行う。

18 歳未満の市民全員とその他希望者には年 1 回、甲状腺・尿・ホールボディカウンター検査等、内部被爆の状態を確認する検査を実施する。

母乳育児をしている母親を対象に、母乳の検査を無料で実施する。

食品中の放射能を測定する機械を市民が無料で使用できるよう設置する。

市内農家を対象に農地の土壌検査・収穫物検査を実施し HP 等で公表する。

(8)

【青梅市の 10 年後についてどのような将来像を描きますか。】

ゆるやかなつながりに安心を感じる暮らし、訪れる人がその情緒と豊かな自然にふれて魅了されるまち

【将来像を実現するために必要な施策や事業】

何かの団体や自治会などに所属していないと、地域とつながれないようではコミュニティの醸成も限界があるかと思えます。

ひとりでも気易く立ち寄れる「居場所」がたくさんあると、そこに集う人々から新しい活動が芽生えたり、世代を超えた助け合いが広がるのではないのでしょうか。自治会のような居住の区域・エリアによるつながり方だけではなく、

テーマに共感する人々によるつながりを支援する機能(市民活動・ボランティアセンター)を強化することも重要かと思います。

さらにいえば、あくまでも任意団体なので行政からあり方について口出しはしにくいかとは思いますが、自治会についても、もっと加入を促進する必要があるならば、子育て支援の機能を高めて、若い子育て世代にとって、実利と魅力があるものにしていくなどが考えられると思います。

子どものための新たな専用施設の建設はどうしますか？担税力のある居住世帯を増やしていかなければ財政運営も安定しないので、子どもをもつ30代40代の世帯が魅力を感じる施設や行政サービスの充実が必要かと思います。

(9)

【青梅市の10年後についてどのような将来像を描きますか。】

子育てしやすい都市、高齢化社会に対応し、地域の絆がしっかりしたまち

【将来像を実現するために必要な施策や事業】

子育て中も働く女性が増加していることへの素早い対応

子育てを応援していく施設が必要であると思う。学童クラブだけでは足りないので、学校等で放課後クラブ(全校)するか、児童館(こどもセンターなど)を作るかしていただくと安心して働くことができる。かなり他市に困難を抱える親子が流出している可能性あり。

時代に合った子ども会

子ども会が何十年と同じスタイルで継続されているが、かなり親も義務でやっているように思う。必ずしもスポーツだけで大会をするばかりでなく、多様性のある活動ができると、自治会ともよい連携が生まれて地域が活性化するのは。働きながら運営するには荷が重すぎると思うほど仕事があると思う。このままだとどんどん消滅していく。

価値観はかなり多様化し、いろいろなスタイルがあるので、そのあたりを変化させていかないと他の地域に越していく人も増えてしまうのでは。ずっと住みたいと思うような特典をつくってはどうか。

自治会も高齢化しているので、地域を応援(活性化)していけるシステム、市を中心に作ってはどうか。

中高生に対する支援機関をもっと増やしてみてもどうか。それによって10年後まちをつくっている担い手の数が変わってくるのでは。困った時に手を差し伸べてくれるところがあれば数年後その人はその地を支えていくので

はないか。

(1 0)

【青梅市の10年後についてどのような将来像を描きますか。】

安心して、人と人がつながっている町

仕事が身近な地域にあり、商店街が生き生きして、市民活動が盛んな町

【将来像を実現するために必要な施策や事業】

市民が、意見をだしていく意識が薄い

声をだしても、聴いてくれる機関が身近にない 声をだしてよか

子どもが集える居場所がない 児童館がない市はめずらしい

音を出せる施設が少ない 市民センターは住宅街にあるので太鼓や楽器がNG 子どもの声も近所から苦情が来ると聞く

市民が、人と人がつながって街になるという意識をもち、住みよい街にするための「知り合う」場が必要である。

今回の震災の経験で、つながり=絆がいかに人が生きていく上で必要なことだと感じる事ができた。どうやって子どもからお年寄りまで「つながり」をもつことできるかは、ひとえに「楽しい経験」「楽しい出会い」「お互いの得意を生かした交流」を生み出すことだろう。

「市民参加のまつり」「市民が作り手になるまつり」を小さい単位の地域に新しくつくること

自治会ではない、それを得意とする市民の発掘やNPO団体をまとめる施設が必要と思う。

(1 1)

【青梅市の10年後についてどのような将来像を描きますか。】

スピリチュアルな山岳リゾートの玄関口

活力と雇用の場のある都市

高齢化に対応した福祉都市

【将来像を実現するために必要な施策や事業】

スピリチュアルな山岳リゾートの玄関口

御岳山をセドナのようなスピリチュアルなパワースポットとして打ち出す。
御岳山へのアクセスを良くするために御岳駅から滝本駅へ遊歩道を整備する。多摩川沿いの道が理想だが、防災上難しいのであれば、山側でも良い。

山側には、かつての御岳神社への参詣道があると聞く。ここを熊野古道のように復活させてはどうか。そして、茶店・売店を整備するとともに終点の滝本駅付近に御岳神社の分院としてパワースポットを設け、またセドナのポイントンキャニオンのエンチャントメントリゾートのようなデスティネーションスパを併設してスピリチュアルな御岳観光の拠点とする。

活力と雇用の場のある都市

青梅IC周辺を節電不要の「エネルギー特区」として企業を誘致する。

高齢化に対応した福祉都市

青梅市立総合病院を世界で最も進んだ高齢者医療が受けられる病院とする。
特養に入所している高齢者の家族に訪れたいと思わせる環境づくりを考える。

(1 2)

【青梅市の10年後についてどのような将来像を描きますか。】

高齢者・障害者・子ども、そして全ての市民にやさしい福祉都市

【将来像を実現するために必要な施策や事業】

市民が、福祉に関する問い合わせ、相談など、いかなる問い合わせにも、代表電話で適切な一時対応(応答)が可能となる青梅市に福祉専門窓口『福祉110番』を設置することを提案します。

青梅市の福祉サービスは、現在、多様な資源を利用することで、安心していける体制ができつつあります。

ただ、福祉に関する問い合わせや相談は、各専門部署に問い合わせる必要から躊躇することがあり、また、福祉のニーズは突然起こることが多いものです。

福祉110番は、問い合わせ窓口を一本化し、福祉、健康、医療、事故、虐待苦情などいかなる問い合わせにも一時対応できるシステムです。

福祉110番は、市民のだれでも覚えやすい電話番号とします。

窓口には、専門性の高い、経験豊富な職員や退職者などを配置します。

問い合わせや相談内容は、適切に、速やかに処理します。

応答は記録し、市長や福祉担当部長が定期的に目を通します。福祉に関する問い合わせの一本化により、市民の福祉サービスは向上するものと考えます。

(1 3)

【青梅市の10年後についてどのような将来像を描きますか。】

「日本初の環境大学を中心とした環境学園都市青梅」

【将来像を実現するために必要な施策や事業】

不足しているもの。行政が市民の能力を政策レベルに取り入れる勇氣

重点 青梅の地勢が環境特化都市を作るのに恵まれている。

青梅市は、明星大学を擁しているが全然生かされていない。

有利な地勢と人口規模、大学のキャンパスがあることを、今一度他市からの目で見ると、環境都市にできる条件が完備している。

ここには全ての可能性が埋まっていることを再認識して欲しい。

方法 大学を環境大学に特化することはその気になれば容易なことである。人材も資金も日本中から集め5年で立ち上げることができる。

成果 10年後、青梅が日本唯一の環境学園都市になれば若い人の流れができる。その人の流れが今までの概念を越えた産業を生み出し雇用も生まれる。

(1 4)

【青梅市の10年後についてどのような将来像を描きますか。】

自然環境のよい住みやすい都市

活力と雇用の場を求められやすい都市

【将来像を実現するために必要な施策や事業】

スマートシティ構想(8/21 N.H.K 21:00 ごろ放送)のような発想開発

企業における各種技術の開発、研究を行う施設を産学共同で作る

農林産物、工芸品等の産直センター(大規模なもの)を官民共同で作る

交通問題への対応

東西交通は道路、鉄道、バス路線等で便が多いが、南北交通にバス路線が必要とところが多い。民営バス路線の拡充、市内循環バスなどの検討

市民所得の向上対策(むづかしいがいろいろ対策は考えられる)こそ最も重要は施策ではないでしょうか。

(1 5)

【青梅市の 10 年後についてどのような将来像を描きますか。】

高齢者に住みやすく、出歩きやすい町

【将来像を実現するために必要な施策や事業】

青梅駅前で商売をしておりますが、高齢のお客さんにとってこの町は少し広すぎるのではないかと思います

空き店舗と住宅・マンションが商店の間にあり、歩くのが億劫な年寄り達の動線を断ち切っています

土地の持ち主が土地をどう使うかはその人の勝手ではありますが集客力のある商店は、向こう三軒両隣にも経済効果を与えるものですし「活気のある地域」とはそういった店が集中している場所のことを言うのだと思います

これからますます高齢者が増えてゆく 10 年後の青梅のためには高齢者が歩いて回れる範囲に集中した空き店舗対策の強化と住宅地と商店街をはっきりわけたメリハリのある再開発が必要だと思います

(1 6)

【青梅市の 10 年後についてどのような将来像を描きますか。】

自然環境の良い都市

【将来像を実現するために必要な施策や事業】

緑がいっぱいで、親しみのある里山から国立公園までである青梅市は週末を使って自然と触れ合える街としてもっとアピールできると思います

ただ、最近のファミリーは自然との安全な付き合い方を知らない人が多いです

自然を壊さないことについても興味がなかったり無知な人がいます

初心者な人々を山や川の事故から遠ざけ、なおかつ存分に楽しんでもらうための努力が必要です

登山者が不必要に道から外れないような遊歩道の整備・拡張

道案内だけでなく子どもやお父さんに山や川での遊び方を教えられるガイドの養成

虫取りなどをしても良い場所を確保する代わりにそれ以外の場所は自然

保護区域であることをはっきりさせる

など、自然体験初心者到手厚くすることとは結果として自然保護への関心を高めるだけでなく、「知らないことと」による環境破壊や遭難を減らす手段にもなるはず

(17)

【青梅市の10年後についてどのような将来像を描きますか。】

都心から日帰りで気軽にリフレッシュしに行けるカントリーサイド

【将来像を実現するために必要な施策や事業】

青梅は電車に乗って気軽に遊びに来て、お酒を飲んで帰ることが出来る町です

観光客によく言われるのが

地元の野菜とかの直売所はないのか

名物の食べ物が食べられるおみせはないですか

景色を眺めながら考え事をしたいのだが、いい場所はないか

骨董品や洒落た民芸品が見られるのはどこですか

駅前には以外に緑が少ない普通の町なのだね

といったところ

以上を踏まえて2点提案します

JRの駅前に里山らしい緑のあるフリースペースをつくる

そこから徒歩で移動できる場所に、地場野菜と青梅らしい土産物が見られる観光案内所を設置する(今の観光案内所は少し機能に乏しいようです)以上です

(18)

【青梅市の10年後についてどのような将来像を描きますか。】

幼い子どもがいるファミリーや若い女性でも安心して住めるベットタウン

【将来像を実現するために必要な施策や事業】

ここ数年、青梅駅周辺では夜間の路上で食事・飲酒をする人々が増えています

放置ゴミ・野宿をする人も見られるようになって来ました

河辺駅周辺でも増えているようです

こういったことは、地元住民が困惑するだけでなく新しい転入者が青梅に住むことをためらう理由になります

それに小さい子どもがいる人にとってはストレスになります

交番をお願いして見回りをしてもらうのも解決法ですが、そもそも青梅には夜になると人目がなくなる裏通りが多すぎます

まちづくりの指針となる青梅市総合長期計画、とのことなのでお願い申し上げます

夜間に死角が生まれにくい、安心感のある街づくりをお願いします

路地は町に表情を与える素敵なものだと思いますが、空き家が並ぶ寒々しい路地は地域に荒れた印象を与えます

個人的には緑が豊かで穏やかで親切な人の多く、都心への通勤通学が可能なこの町は、子育てに良い条件を持っていると思います

(19)

【青梅市の10年後についてどのような将来像を描きますか。】

リタイア後にのんびりと暮らしたい、都心に近い自然環境に恵まれた町

【将来像を実現するために必要な施策や事業】

交通網の発達によって都心へのアクセスが楽になった地方都市が増えてきましたが娯楽や情報の密度に関してはまだまだ東京郊外の方が地方都市より充実しております

「リタイアしたら、山があって川がある町に住みたいがド田舎はいやだ」という世代にとって、青梅はとても魅力のある町です

これで、もう少し田舎らしい気候の良さがあれば言うこととはないのですが、冬が寒い割には夏にあまり涼しくないのが残念です(奥多摩まで行けば別ですが)

私はスカイスポーツを趣味にしているため、天候や風の向きに関心がありますが、青梅市新町のアメダスの情報によれば青梅は夏は日中、東～東南東の風、夜間は西～北西の風が抜けます。冬はおおまかに、北から南へと風が抜けます

私の住まいである青梅駅周辺は、地形の影響で風が巻きますのでもう少し複雑ですが路地を東西にはまっすぐ風が抜けるように、南北には互い違いに風が抜けにくいように配置すれば、夏に風通しが良くて、冬は建物に守られた、過ごしやすい町になるのに、もったいないことだと常々思っております

(2 0)

【青梅市の 10 年後についてどのような将来像を描きますか。】

代々続く老舗と面白い新規店が共存する商店街

【将来像を実現するために必要な施策や事業】

青梅駅前商店街では今、十代から 30 代前半の後継者達と後とり候補達が現れ始めています

若い後継者達が家業を告ぐ決心をするためには、その地域の経済と自分の店が自分が年をとる頃まできちんと存在し続けられる、という見通しが必要です（今 20 歳の人ならば、この先 40 年位は収入が得られる見通しが必要でしょうか）

今の青梅で、ほとんどの商店にとって重要な消費者は団塊世代と、団塊世代に買い物の指示を出す八十代の親達です

でも、彼らはいつまでも健在なわけではありません

時代に応じて柔軟に変化できる商店街でなければ、時代と客層の変化に翻弄されてしまいます

青梅は文化の香り高い町です。それは古くからその土地に住む老舗商店の功績ではありますが、もっと新規参入者が出店しやすく、変化にとむ町になっても良いと思います

(2 1)

【青梅市の 10 年後についてどのような将来像を描きますか。】

青梅市の 10 年後には、100 年後を見据えた都市像です。100 年後を見据えるためには、現代の世代（祖父母、父母、子供夫婦）のあり方を見据えることです。とすれば、祖父母は姥捨て山（老人ホーム）、子ども夫婦はフリーター、父母は共稼ぎ、とした家庭崩壊の現在をどのように立て直すかです。青梅市には、伝統的文化、豊富な自然、豊かな環境に育まれた人材、3つの資源が重なり合った都市像が画けます。この 10 年は、地産地消、職住学近接を実現することです。そのための 10 年ごとのマイルドストーンを都市像に組み込むことです。この 10 年で可能なレベル（円満な 3 世代数の割合）がその都市像です。

【将来像を実現するために必要な施策や事業】

理想的な家族（三世代円満）像が不足しているために、都市像が画けないのです。

地産地消、職住学近接の欠如が理想的な家族像の崩壊を来たしています。

地産地消、職住学近接のバロメーター、それに比例する理想的な家族数を画けます。

青梅市では、地域資源である、文化環境、自然環境、人的資源の活用が生かされていない。

自然資源である、森林資源、土地資源、水資源は生かされているでしょうか。

神社仏閣、古民家、民芸などの文化資源は生かされているでしょうか。

高齢者のノウハウ、技術、技能、知識は次世代に継承されているでしょうか。

全てが、理想的な家庭像（三世代の形成）の存在に示されます。

青梅市の自然、文化、人はそれを可能にするでしょう。

まずは、青梅市における理想的な家庭像の発掘と、定着への都市づくりです。

(2 2)

【青梅市の10年後についてどのような将来像を描きますか。】

安全が守られた町

【将来像を実現するために必要な施策や事業】

青梅街道の、青梅より奥多摩方面の区間（特に日向和田駅以西）は、道路の道幅が狭い上に、歩行者用のスペースが整っておらず、特に子どもをひとり歩きさせるのが不安です。せめて、歩道を作る、ガードレールを設置するなど、何らかの改善をお願いします。

(2 3)

【青梅市の10年後についてどのような将来像を描きますか。】

子どもも大人も一人ひとりが主人公の街、青梅

【将来像を実現するために必要な施策や事業】

青梅市には、子どもの無料で遊ぶ場所が不足している。

子どもが遊び、体験し、まなび、つながれる環境づくりに重点をおくべき。

具体策

1．市内に複数個所、児童館を建設する。

子どもが、無料で自由に心置きなく遊べる環境が少ない。市民センターのロビーでは遊べない。また、センターの部屋や遊戯室は団体に登録しないと参加できず、敷居が高い。子どもが、自由に来館し遊べる児童館を建設すべき。また、単純に遊ぶ場だけでなく、地域と子どものつながりをつくる活動や、子育て相談や子育てサークル活動を促す場である。昨今の子どもを取り巻く問題になっている、DV、ネグレクト、いじめ、などの防止や第一発見などにも、とても有効的だ。また、中高生の就労の機会づくりや、不登校の子の居場所づくり、引きこもり対策などにも有効な場となりえる。学校でも、家庭でも、市民センターでも担いきれない子どものことを扱う児童館を設置するべきです。近隣都市（羽村市、福生市、あきる野市、昭島市、立川市）には児童館が複数あり、地域格差を感じる。参考 HP(福生児童館：<http://www.fussa-jidoukan.net/>)

2．青梅市民会館の改築

青梅市民会館が老朽化している。もっと市民、子どもが利用しやすい施設や取り組みをして欲しい。市内や近隣の中高生などが演劇や演奏、ダンスなどで使用しやすくして欲しい。

3．河辺駅まえに公園（児童遊園）をつくって欲しい。

都市開発という、とかく経済の視点のみの話しになるが、むしろ駅前などは、子ども達や親子がしやすい公園などにした方が市民のためだ。特に、河辺駅前の巨大パチンコ屋には辟易する。

青梅市の最大利用数が多い駅前に、でかいビルだけたてても、意味がないように思える。

若草公園などもあるが、もっと、文化のかおりを感じられる公園や駅前づくりを、今後10年間で取り組んで欲しい。

4．NPO団体との協働のあり方

財政難より、行政がコスト的に担えない事業を、NPO団体に安く外だしする、といった協働は撤廃するべきだ。もっと良質で、市民のためになる協働を、NPO団体と共に模索して欲しい

(2 4)

【青梅市の10年後についてどのような将来像を描きますか。】

活力ある良い街づくりを基本方針に

経済のグローバル化や金融恐慌を視野に入れ、自給自足もできる地域経済の

安定を目論んだ地域産業活性化基本構想を創り、コンセプトに基づいた選択と集中の手法や市内企業の発展と振興のための保護施策を導入することで、地域経済の安定と市財政基盤の確立が計画的に図れ、市民福祉向上につながる。

また、その手法は、地産地消の推進と地域内調達を柱に、優良企業の誘致、その就業者のための施策も同時行う。納税市民の定住が促進され、地域まちづくりを担う一助と共に、より良い特徴ある青梅構築につながる。

ア. 地域産業活性化基本構想の策定

人口推移・日本や世界の経済動向等鑑み、地域経済の発展と振興計画を策定する

また計画作りだけに終わらぬよう、戦略を含め推進策(方法論)も組み込む。

市内企業の適正規模確保のための策

市内労働人口を考えた適正規模の企業誘致

優良(法人税・雇用の場確保)企業の長期滞留施策

リスク回避のため多分野企業の誘致

他市町より条件の良い環境整備

市内企業への優遇措置の実施

工場や店舗など固定資産税減免措置の実施

入札など市内企業の落札促進を促すと同時にその条件の強化(納税と納税地・市民雇用の割合・地域貢献)策を入れる

地産品の普及促進、市内調達・市内企業発注、市内企業品仕様

商業について

* 大型量販店などの出店に関し、市場経済主義に委ねる策からの脱却、統制(街づくりの核)のとれた計画的商業施設出店になるよう仕向ける

* 商店街の位置づけを明確化する

・ 市内支所を単位として一地域一つ以上の商店街の構築

・ 地域コミュニティの出会い・ふれあい・助け合いの場と位置づけ、そのための環境整備を促す

鉱工業について

* 市内企業や出店希望企業への税制など優遇措置

* 地理的条件を活かし補う措置の実施

物流や通信網の基盤整備やマイナス要因の打破

* 再生可能エネルギーなど先端技術導入企業への支援強化

* 外資獲得企業への優遇措置の実施(売上等を市外から調達する企業)

農林業について

* 市の面積6割以上が森林、その活用を市の基幹産業に育てる

林業や製材業の生計が成り立つ仕組みづくりを支援

(地場産木材の普及促進と伴にバイオマスエネルギー施設を官民共同で設けることで林業が復活できる)

* 低農薬、有機栽培を取り入れた農畜産品製造の推進

青梅の野菜や畜産品安全でうまい「農畜産物の地域ブランド化」のイメージ作り

小規模農業従事者(高齢者の参加を促す)の育成や農地の借り受け制度商店街内やスーパーの一角に販売所の設置施策を

観光について

* 「お宝のまち青梅」イメージアップ作戦

青梅市には国宝が2点、重文が 点、また御岳溪谷や吉野梅郷、塩船などと伴に川合玉堂・吉川栄治・藤本能道など著名な文化人を輩出、また郷土文化が根付き継続している土地柄、それらを統合して「お宝のまち青梅」を観光の目玉にする。

* 市民へのアピール強化

それら地域の財産が身近にあり、自然環境に恵まれた地域特性を知らせ価値観の共有を図る、そのこと(口コミ)が、一過性でない観光産業の振興につながる。

* 青梅駅前を秩父多摩甲斐国立公園の玄関口と位置づけ基盤整備を行う

団体アンケートのとりまとめ

団体アンケートについては、「団体等の現状と課題」、「今後のまちづくりへの提案」、「自由意見」の3つの自由記述のアンケートに対して、14の団体からの回答がありました。その内容は以下のとおりです。

(1) 一般社団法人 青梅市観光協会

【団体等の現状と課題】

平成22年4月1日、青梅市等の指導により一般社団法人格を取得し法人として新たなスタートをきった。

事業については、新たに作成した定款を踏まえ平成22年度から平成26年度の5か年の基本方針を策定し、この方針に沿って事業を実施している。

観光事業については、青梅市と連携を図り、車の両輪として事業展開している。

今後は、協会の経営自立化に向けた取り組みが求められ、観光収益事業をいかに進めていくかが課題である。そのためには青梅市の支援が引き続き必要である。

【今後のまちづくりへの提案】

総合長期計画は市のまちづくりの最上位計画である。この計画・基本方針が全ての市の個別計画に活かされなければならない。そのためには所管部だけでなく全ての市職員が総合長期計画を理解することが重要である。

そして計画は市民に対し分かりやすく理解しやすい計画とする。そのためには財政計画とリンクして実現可能な計画とする。

また、我々は未曾有の東日本大震災を経験し、福島第1原発事故による放射線の影響と半世紀以上にわたり向き合っていかなければならないことを忘れてはならない。

【自由意見】

今後のまちづくりは、少子・高齢、人口減少、経済低迷と所得減少・社会保障費の増大、原発・放射能、震災国日本など、我が国を取り巻く「負」の諸課題から考えると、市民生活に直結した現実的な政策が求められる。

このためには、地域特性を踏まえ、青梅地域ならではの「オンリーワンの地域づくり」が重要であり、限られた財源を最大限に活かしたメリハリのある施策を実施する。

キーワードは「健康」と「元気」が柱になる。そして東日本大震災、福島第

一原発の放射線の影響（日本国民の心理的な影響を含む）が長期におよび、特に子どもの未来に関し大人が責任を果たしていかなければならないことから、青梅市の地域特性である「共助」に磨きをかけるとともに、福島県飯舘村の「までの力・までの心」が計画推進の大きな原動力となりうるだろう。青梅方式のスローライフを計画しよう。

*までの力・までの心

手間ひまを惜しまず、ていねいに、心をこめて、つつましくという意味の東北地方の方言。今風にいえば、エコ・もったいない・節約、思いやりの心・人へのやさしさ

（２）青梅市民生児童委員会協議会

【団体等の現状と課題】

私たち民生委員は高齢者障がい者児童あかちゃんまで対応しています。活動内容が広がっています。行政として統括する組織の立上げを考えて下さい。

【今後のまちづくりへの提案】

青梅市でも65才高齢者の人々の人口が21%を越えて来ています。このような人口形成をどう考えましょうか。

また市内では子ども達が少なくなり未婚者が調べて見ると多くなってきています。市では対応しているのでしょうか。

【自由意見】

（３）青梅交通安全協会

【団体等の現状と課題】

当団体は「青梅市交通安全計画」及び「交通安全対策審議会」で決定される交通安全に関わる施策の実働を担っている。

政策の実働部隊でありながら、事務局費用は一部住民からの寄付金で賄われているのが実態。しかも寄付金は毎年大きく減少しており存続が危ぶまれる。

指導員に消防団や自治会の各委員のような公的な身分を与えられていない。

年間の出動回数が多く平日昼間の出勤もあるため、年々、指導員のなり手が減少している。また、寄付集めへの抵抗も減少の大きな要因ともなっている。

【今後のまちづくりへの提案】

交通安全に関わる施策の実行は行政の仕事と考えられるので、現在のようにその活動を一部の住民の寄付によって賄うということは公平を欠く。

福生市、羽村市、瑞穂町のような近隣自治体では「交通安全推進委員」という公的な制度があり交通安全施策の実行を担っている。この実態は、福生交通安全協会の福生支部、羽村支部、瑞穂支部の指導員であるが、費用は行政が負担しているため、寄付を募る活動をする必要がなく本来の活動に専念できる。

一方、青梅交通安全協会は組織維持を寄付金に依存しており、寄付金が減少を続ければ、活動の縮小はもとより事務局を維持できず、会の存続も難しくなる。

せめて、近隣自治体のように「交通安全推進委員」制度を導入し、指導員に公的身分を与えるとともに、事務局費用を行政で賄うことをご検討いただきたい。

【自由意見】

安協役員から出た青梅市の今後のまちづくりへの提案 青梅市には何が不足しているか、何をもっと伸ばしていけばよいのか？

観光の拠点、十分な収容人数の会館（ホール）、アピール度、交通機関。

青梅市は今後のまちづくりで何を重点にしていけばよいのか？

自然（森・水）、スポーツ

そのための具体的な提案

観光の拠点：奥多摩町と協力し奥多摩湖などを観光の拠点として、充実を図る。

青梅の町中をレトロで宣伝の一環で人力車などを使いアピールする。

会館（ホール）：十分な収容人数のホールを作り、市民はもちろん芸能人などをお願いして活性化を図る。

交通機関：青梅の観光施設から観光施設への巡回バスを運行

自然・スポーツ：東京国体のカヌー競技を契機に誰でも手軽にできるカヌー場を作る。夏場はバーベキュー場やキャンプ場なども併設し活性化を図り、その他の季節は、自然観察場などを作り、自然を満喫してもらおう

その他の意見

青梅市役所では春と秋に交通安全講習会が実施されているのか？

されてないとしたら、各地で開催される講習会の参加を義務づけてほしい。

青梅市の職員のみなさんの参加で自治会活動を盛り上げてほしい。

防災安全部のみなさんに、もっと安協活動に参加してもらいたい。

(4)(特)子どもと文化のNPO子ども劇場西多摩

【団体等の現状と課題】

活動現状(ねらい)

子どもを中心とする文化体験や芸術体験で市民が元気なまちづくりを目指す

課題

行政・他団体との協働が不十分

まちづくりのネットワークが不十分

活動場所が不十分

情報公開や市民参加が不十分

【今後のまちづくりへの提案】

何が不足しているのか

文化芸術の体験の機会や場所が不足している(芸術家との出会いを含む)

市民が主人公(主体)になる、まちづくりが不足している

そのための具体的な提案

文化芸術活動を行う施設を増やす(音や動きのある活動ができる)

施設運営を市民にゆだねて、市民目線で施設を活用する(指定管理・受託の拡大)

永山丘陵などを利用して自然体験の場を充実させる

市民が意見を出せる場をたくさんつくる(パブコメ 市民委員の拡大)

市民提案の協働事業提案制度の創設と充実

市の職員と市民活動団体(個人含む)の共通の研修(街作り・協働)

市民活動団体が繋がったり、つどえる場所の充実(ボラセンでは不十分)

まちづくりの重点

市民参加(参画)と協働でまちづくり

【自由意見】

子ども時代に人とのふれあいやつくりあう体験は、人が人として生きていく中で、必要なものである。この体験が不足していると感じます。それに、有効なのが文化活動であると考えています。

一人一人の意見を出し合い、つくりあう体験は、トラブルもたくさんありますが、それを乗り越える力を育みます。人の気持ちを考える、一人一人の個性や特技を生かし、楽しく行き合う力は、今の大人にも問われているように思います。

人が元気であれば街が元気になります。

青梅市には、芸術家が多く在住しますし、青梅の自然を生かした事業を展開しよ

うと若者も集まって来ています。そのような資源を街作りに大きく生かしていけると、青梅市の特徴ある政策になるのではと思います。

(5) 社会福祉法人青梅市社会福祉協議会

【団体等の現状と課題】

現在指定管理者として福祉センターの管理を行っています。

この福祉センターは、耐震診断・耐震設計の結果、費用対効果が望めない状況で、耐震工事が見送りとなっています。東京直下型の地震がいつ起きるかわからないなか、耐震基準を満たしていないこの建物には大変な不安があります。昭和45年に建設された青梅市福祉センターは、40年以上が経過しており、設備等も老朽化して、毎年のメンテナンス費用も多大なものがあります。また、冷暖房設備なども効率が悪く、エコな建物とは言えません。上下水道等の配管も限界がきており、排水の詰まりなどが多発しています。

【今後のまちづくりへの提案】

福祉センターの建替え

若者の人生の門出を飾る結婚式場は西多摩で唯一の施設です。また宴会場は市内で唯一の椅子席で大宴会のできる会場として、市内企業や団体からは重宝がられています。今後も、無くてはならない施設でありますので、市の長期計画として、仮設駐車場等への新築移転を計画していただくことを提案します。

学童保育所の活用

私ども社協がここで策定する「第四次地域福祉活動計画」において、指定管理者で運営している学童保育所を活用しての子育て支援事業の推進を掲げました。この事業は、次代の社会を担う子ども一人ひとりの育ちを社会全体で応援する総合的な子ども・子育て支援の事業と位置づけ、その一翼として学童保育所の活用を考えております。市の施設を使うことになりますので、施設の利用についての特設のご理解とご協力を賜りますよう提案します。

青梅ボランティア・市民活動センターの組織強化

平成23年度中に災害ボランティアセンターの設立に関する協定書の締結を予定しております。災害発生に備え、日頃から迅速な対応を確保するため、人員を含めた体制の充実による機能強化を図りたく提言します。

学童保育事業の態勢整備

学童保育事業は小学校低学年児童の放課後の安全施策として、社会の中に確固たる位置づけがされています。その子どもの安全を守り育てるための事業が

従前から継続して拡充されてきています。平成24年度からは保育時間の延長等の実施に合わせ、十分な態勢の整備がなされるべきものと提案します。

また、障がいを持つ児童の受け入れをしていますが、集団保育のため個々のニーズに対応することが困難になっています。障がいを持つ児童を既存の学童保育所に受け入れるのではなく、障がいを持つ児童のための学童保育所の設置を提案します。

組織強化（職員の交流研修）

社協職員は、社協で雇用されてから他の組織などへの異動や派遣も無く、その組織内での担当業務の変更しかありません。このような職員のスキルアップのため、また市担当部署職員の社協業務への理解を深めていただくために、中長期の職員交流を提案します。

【自由意見】

（6）青梅防犯協会

【団体等の現状と課題】

青梅防犯パトロール車（青パト）を活用した防犯対策7月～実施
各自治会（友会）での防犯パトロールの協力
女性部の活動について
特別会員の拡大
防犯のつどい10/6全国地域安全運動
10月11日～20日防犯キャンペーン10日間（毎日）

【今後のまちづくりへの提案】

安全安心まちづくりのための防犯に関する情報の収集および提供
防犯活動への支援また防犯に配慮した環境の整備

【自由意見】

（7）NPO サローネ

【団体等の現状と課題】

昨年度より任意団体の「サローネ」として活動。
本年8月NPO法人として登録申請。9月15日現在は縦覧期間中。12月に設立予定
「まち」を構成する空間・経済・人の三要素のうち「人」を充実させること

とにより文化的で暮らしやすい街づくりについて考え、活動しています

【今後のまちづくりへの提案】

青梅には古くから、善意によコミュニティたちが助け合うコミュニティがありました

しかしながら現在、このコミュニティは縮小寸断され、希薄になりつつあります

子どもの活動の目的は、市内のコミュニティを維持・発展させることで暮らしやすい町を作ることとですが、草の根レベルの活動ではどうにもならないことが2点あります

人や商店が減って老人が増え、集落が間延びしてきている

対面販売式の地元商店での買い物が少ない、あるいはできなくなった人がいる

今後の街づくりへの提案として、老人が歩いて移動できる範囲内に医療・社交・社会参画の場・買い物の場を集中させ、車がなくても暮らしていける町を目指して欲しいと思います。

【自由意見】

問3で記述した「対面販売式の地元商店での買い物」について補足します
セルフサービス式販売の大型店では、店側が客とコミュニケーションをとりませんが、対面販売の商店では店主が客と密接に関わるため、自然な見守りが生まれます

そのため、店主が一人暮らし老人の家族と連絡を取り合って生活の様子を報告していたり商店街の店同士が一人の老人の様子を協力して見守っていたりする事例が多くあります

また、子育て世代、新規転入者が地域に馴染むためのナビゲーターの役割を果たしている場合も多く、有力な地域コミュニティの一つと言えます

しかしながら、商店街自体の魅力の低下、住民の大型店舗への依存、そもそも青梅で買い物をするという発想が薄れてきていることとにより、近年コミュニティとしての能力を著しく下げつつあることが懸念されます

対して、成長しつつあるのは「習い事」系コミュニティですが、規模が小さく、分断されているものが多いため、暮らしやすいまちづくりの基盤となるには発展途上と見ております

(8) 青梅ふるさと市民

【団体等の現状と課題】

“ 青梅が好きだ ” をキーワードに。青梅の恵まれた資源を生かして、内外の市民の交流促進を図り、青梅を愛する人々の輪を広げます。

< 活動方針 >

地域情報の収集精査と発信の共有を図る事業

地域資源を生かし、人々の交流を図る事業

まちづくりの推進を図る事業

その他、上記に関連する事業

7月10日設立会を催し、発足して間もないことから、人、資金も不足しておりますが、志は高く、地道に活動していきたいと思っております。

【今後のまちづくりへの提案】

“ 青梅が好きだ ” と実感できるまちづくり

優れた自然・歴史・文化資源に恵まれ、住みよい街、住みたいまちに挙げられている青梅ですが、昨今の経済情勢において、あきらめムードが広がっています。市民に夢を与える積極的なまちづくり施策の展開が望まれます。

観光都市から交流都市へ

一過性の観光でなく、当市の豊かな資源を活用した内外の市民交流を図る。

親戚づきあいを通じて青梅をふるさととする人の増大を図る。

ライフスタイルのブランド化

自然に包まれた、エコでスローな生活にあこがれる人が増えています。青梅はそのような生活を実現できる環境に恵まれています。この資源を活用したプロジェクトを起し、内外に広く発信していくことが必要と考えます。

農の新たな展開と里山保全

概念としてはもはや陳腐化しています。様々な提案や試みがなされていますが、個別でとどまっています。施策として総合的に連携していくことが必要です。

都市近郊農業の新たな形態とこれと合わせた里山の保全と活用

農業緑園都市など実証拠点ゾーンの整備

青梅ブランドの開発育成

疑似親戚づきあいと産地直送（バーチャルばあちゃん）

このため、市民・産・官・学の協働による体制作りが望まれます。

駅前24時間生活交流都市

駅前利便を生かし、子育てと福祉を重点に施設・人の集中を図る。

新たな交通システム導入により、上記プロジェクトゾーンや地域住民の連携交流

を図る。(コミュニティビートル、エコサイクルなど)

地域内経済循環の活性化

これらの施策により、地域内経済の循環を図ることにより地域を再生していきます。

地元消費率の向上のための施策(地産地消、朝市など)

新たな資源循環(例:ボランティアによる伐採林を活用した活動拠点(溜り場)づくりなど)

学園都市に向けた地域連携の推進

明星大学や高校を活用して市民並び地域内外との連携を図り、

若者との交流、就活支援

世界の智・芸術を集める

地域資源の保全と活用

市内の貴重な歴史文化遺産を保全し、資源として活用していく。

津雲邸、大多摩酒造など

拠点のネットワーク、散策ルートの整備

【自由意見】

まちづくりへ提言したいことは多々ありますが、各方面から、様々な提言がなされることと思います。今回は、当団体の活動目標に直接関係する分野について、若干の提案をさせていただきました。時間もなく、検討不足や言い足りない点もございますが、ご高覧いただければ幸いです。

上段で申し上げたように当団体は発足して間もなく、思うような活動展開が進んでおりません。今後様々な課題を抱えておりますが、地に足の着いた活動を進めていきたいと考えております。活動拠点の確保なども含め、今後とも、市のご指導、ご支援を賜り、未永く見守っていただきますようお願い申し上げます。

(9) 保育園連合会

【団体等の現状と課題】

【今後のまちづくりへの提案】

【自由意見】

長期計画に係る意見について

国は、平成25年度から待機児童解消に向けた0歳～2歳児保育の拡充や幼保一

体化による幼児教育・保育などを柱とする「子ども・子育て新システム」による大きな制度改革を実施する方向を示しています。今後、子育てや就学前の子ども等を取り巻く環境の変化について懸念されるところであります。

市内保育園の要望・意見等は、毎年、市長にお願いするところですが、その中で、従来から大きな課題として施設改善について、取り上げていただいております。今後も、「多様化する保育ニーズに対応し、保育サービスの充実を図るとともに、待機児解消を眼目とする施設改善」に引き続きお力沿いをお願いいたします。

(1 0) 青梅市立幼稚園協会

【団体等の現状と課題】

共働き世帯の増加に伴い、保育所志向が強まる中で、幼稚園の就園率が年々減ってきている。保育所の0～2歳児の定員増により、幼稚園就園前の2歳児の51%、1歳児の41%がすでに保育所に在園している中で、幼稚園の就園率アップを図るには、保護者の経費負担格差を狭める以外、有効な対策が見出せない。幼保一体化に向けても財政措置が、本当に同じになるか明確に示されない限り、踏み出すことは難しい。

【今後のまちづくりへの提案】

幼い子を長時間他人や施設に預けて、働くのが子どもにとってベストな子育てだとは思えない。親が子育ての悩みを親同士で相談できたり子どもと一緒に遊び、喜びも感じられるような子どもの居場所作り(児童館のような)が必要と思います。

【自由意見】

(1 1) N P O 法人青梅子ども未来

【団体等の現状と課題】

「この街で子育てできて良かったと思える街作り」をミッションに、乳幼児とその親がホッとくつろげる親子の広場、小・中学生(支援学級を含む)達の放課後集える場所、地域交流できる居場所として「青梅子ども未来館」を自主開館、子育て・子育て応援活動を展開し9年目を迎えます。

青梅子ども未来館を始め、各市民センター等で子育て・子育てに関する講座・イベント等を自主開催や行政との協働で開催しています。

2006年度より青梅市子育て支援センターはぐはぐを指定管理者として管理運営しています。

行政と市民活動と企業等の協働という相互理解の元で、より良い青梅市の

子育て・子育ての環境作りが、速やかに行えるかどうかが課題となっています。

今後も、子育て応援と子ども達が安心して安全に遊び学べる環境作りを推進していくために、寄与したいと考えています。

【今後のまちづくりへの提案】

子ども達が、安心して安全に遊び学べ、情操を豊かに育める施設が不安しています。(東京都26市中、児童に関する施設がないのは青梅市のみ)

*子ども達の健全な成長を促すためには、家庭と教育機関と地域が一緒になり子育て・子育て支援や応援をすることとが大事だと思います。

子ども達だけのための施設と言うよりも、子ども達が安心・安全に遊び学べることを中心とした児童館的な内容を含んだ上で、コミュニケーション豊かに様々な人とのつながりを生み出せる多世代交流もできるような青梅市独自の「子どもセンター(仮称)」の施設を提案します。

子育てする親への「子どもの誕生から途切れない子育てフォローアップの必要性」を日頃の活動から強く感じていますので、誕生から18才までの子育てに関する定期的な親支援の講座開催が必要です。

*赤ちゃん誕生直後の親支援のBP(こんにちは赤ちゃん講座)や就学前までの子育ての不安を軽減するNP(ノーバディーパーフェクト)の定期的な実施を提案します。

子育ての孤立化や虐待等の予防になり、子育て中の親達のコミュニティ作りができ親同士で子育てを助け合える力を育む効果があります。

自尊感情が薄れ、孤立化し様々な困難に立ち向かえないでいる親や子ども達が増加しています。虐待にまで至る地域社会を作らない予防対策が必要です。

*子ども達自身が、身の回りにおこる様々な暴力や困難から自分を守るための知識やスキルを学ぶことと子ども達が本来持っている「生きる力」を引出し自らの力で自分を守ることができるようになり、また地域の大人達が自信を持って子ども達の安心安全を見守れるように、「基本的人権・エンパワメント・コミュニティー」の考え方を根底にした人権教育プログラムのCAP(Child Assault Prevention)ワークショップを定期的に教育機関で実施することとを提案します。

親や子ども達が自己肯定感をしっかり持ち、青梅市の市民として生き生きと生活するための心の応援と、お互いの人権を尊重しながら助け合える地域作りに効果があります。

市民活動が様々に行われているが、事務所等の設置がなかなか難しいという問題を抱えている団体が多いので、市民活動団体の事務所が集合して開設できる場所が欲しいです。

*行政機関の建物の1フロアをパーティション等で仕切り、市民活動団体

に貸し出しすると、団体同士の交流もでき、より良い市民活動推進ができると思います。

協働マニュアルが作成されたので、今後、行政と企業や市民活動団体がスムーズに協働できるようになると思うが、協働についての認識や理解がまだまだ市職員にも企業や市民活動団体にも薄いように思うので、協働を速やかに実施できるように推進して欲しいです。

* 協働に取り組んでいる他市の事例や、どのようにすれば青梅らしい協働が実施できるのかを市職員・企業・市民活動団体が一緒に学習できる場を設ける。

新しい取り組みだと思うので、前例に囚われない柔軟な思考・双方の声を傾ける真摯な姿勢がお互いに必要になると思います。

【自由意見】

(12) 遊び会 “ スコーレ ”

【団体等の現状と課題】

子どもたちが豊かに育つために、芸能・音楽・演劇などの芸術文化体験と遊び・自然体験などの生活文化体験が必要と考え、地域に様々な文化体験の場を作ってきています。

活動の中味は年々充実してきているものの、民間で自力でやっているため、どうしても参加者の自己負担に負わざるを得なく、多くの子どもたちに体験をしてもらいたいと思いつつ、中々広げきれないのが現状です。

子どもたちのコミュニケーション能力を豊かにするためにも、益々活動の内容充実のための研鑽をしていきたいと考えています。

また、様々な工夫をしながら、助成金・企業協賛・地域の大人たちの寄付金などで子どもたちの負担がより少なくなるよう努力していきたいと思っています。

【今後のまちづくりへの提案】

子どもたちのスポーツ体験の場は整備されているかと思いますが、文化体験の場が少ないのが現状です。施設としても、文化活動のできる場は限られています。

文化活動のできる場を作り、文化を媒体として異年齢の子どもたちや地域の大人たちとも触れ合う中で、地域を愛する子どもたちが育つことを目指して、「コミュニティアートセンター」の設置を提案します。

コミュニティアートセンターでは、子どもから大人まであらゆる年齢層の方が参加できるアート体験を発信し、それを通して心通う地域づくりの一翼を担

います。

“まちづくりはひとづくり”子どもを真ん中にすえ、文化を媒体としたあたたかいコミュニティづくりの拠点づくりを提案したいと思います。

【自由意見】

(13) 青梅市100年ビジョンを検討する委員会

【団体等の現状と課題】

本委員会は、結成後まだ1年を経っていません。

今年、青梅市市民会館でシンポジウムを行いました。

しかしながら、青梅市役所の職員を含め、青梅市民の参加者が少なかった。

3月11日、東日本大震災が発生、委員会としての活動が停止してしまっている状況です。

ただし、本委員会は、青梅市将来像を100年を単位として想定しております。

今後、定期的な研究会等を開催し、青梅市の将来について、青梅市民に提言して行きたい。

【今後のまちづくりへの提案】

青梅市には何が不足しているか、何をもっと伸ばしていけばよいか

青梅市に不足しているのは、青梅市に豊富に存在する森林資源(バイオマス資源)、古くから伝えられてきた文化資源、多摩川に代表される水資源、そして、自然に育まれた豊かな人的資源の活用ができていないことです。

それは一言で、政策不足です。

政策不足は、市役所と青梅市民のパイプが全然存在しないか、もしくは、極めて歪められるかです。

例えば、おうめ環境市民会議は、青梅市環境基本計画で定められた青梅市と市民との協働事業を推進する組織です。

青梅市環境基本計画は、青梅市長期総合計画の下位にあり、青梅市環境条例でも位置づけられています。

その青梅市環境基本計画では、おうめ環境市民会議を提言しています。

果たして、青梅市職員の何名がこの青梅市環境計画を知り、おうめ環境市民会議の存在もしくは関わりを意識しているのでしょうか。

おうめ環境市民会議は政策遂行のためには、伸ばすべき大きな存在では無いのでしょうか。

これは、一例に過ぎません。

青梅市は今後のまちづくりで何を重点にしていけばよいか

政策は、青梅市に存在する資源の活用です。

その1つ、人的資源の活用をどのように行うべきかに見えます。

児童・青少年の活力の活かし方

防災のための人的ネットワーク

森林資源・土地資源・水資源の活用のための人的資源の確保

高齢者の活用

実際には、その他に青梅市には人的自然を取り巻く、自然環境、文化環境が存在します。

その活かし方こそ政策です。

そのための具体的な提案

具体的な一例として、IT活用があります。

ITは諸刃の刃、悪にも善にもなります。

その1つ、ITを利用した青少年の育成というか活力利用は最大の課題です。

青少年はほとんど、活字を読みません。

市政の広報はITを優先すべきです。

市民のメーリングリストが、1000台とは驚きです。

青少年のほとんどは、メールによる情報交換です。

紙媒体一辺倒の市政情報は、市政を歪めます。

ところが、インターネットによる情報は双方向で正邪が識別できません。

そのためのフォローが必要です。

例えば、放射能測定に見られるように、きちんとした情報提供が必要です。

青梅市民に安全を担保するために、きちんとした自らの測定による情報提供が必要です。

そして、その信頼の上で、インターネット利用が活かされます。

それにインターネットは紙媒体と違い、大量の情報が流せます。

青梅市民は青梅特有の情報を持つことができます。

行政と市民、とりわけ青梅市在住の青少年との協働作業を拡大するようになります。

【自由意見】

青梅市では、行政の事務事業の合理性が進まず、行財政改革が滞っているように感じます。今は、事務事業の合理化はITに始まりITに終わるとも言われています。人的ネットワークの活用にしても、その情報伝達が広報一本やりでは、高齢者層中心であって、脱活字を志向する若者には伝達されません。折角の青梅市メーリングリストも1000余のアドレスが登録されたと聞きます。これでは、政策そのものが、高年齢層に偏重し、青梅市の全政策を歪めます。

祖父母、両親、子ども世代の3世代の円滑な共存と、文化、技術継承が当然となるような社会形成、そのための資本投下が必要です。

そのためには、ITのサポートは不可欠です。

3世代を意識するならば、子ども中心の安全・安心対策は不可欠です。今では、人体、食品、土水、大気、動植物に到るまで、徹底した観測網が、市民を安全に暮らせる担保となっています。

安心・安全を担保とすることで、青梅市ブランドを創り上げることもできます。強いて言えば、こうしたモデル都市の形成を目指し、折角作り上げた、いわき市と青梅市との連帯を深めてはどうですか。ポツパルト市から送られてきた懐中電灯が生かされた都市です。いわき市は、福島原子炉から30km～50km圏内に広がる日本でも4番目に広い面積を誇る人口34万人の都市です。この都市が、原子炉事故で、放射性物質による汚染の危機に瀕しています。青梅市と地形を似せたいわき市との連携は、自然環境、文化環境、工業資源とともに、大きな相乗効果を生むと思います。当面は安全・安心の都市、青梅への疎開を誘発することですが、将来的に、豊かな自然・文化人的資源を享有できるのではないかと思います。

(14) 株式会社森のエネルギー研究所

【団体等の現状と課題】

現在、木質バイオマスのコンサルティングを行っているが、弊社も含め、青梅市内での木質バイオマス利用が進んでいない。弊社以外に東京ペレットや関係する事業者・団体が複数存在するので、地域特性・資源を活かし、東京で一番木質バイオマスを利用する市にしたい。

バイオマスとは・・・

生物資源(bio)の量(mass)を表す用語で、「再生可能な、生物由来の有機性資源(化石燃料は除く)」のことをいう。林業・木材産業の生産・流通過程で発生製造される木質資源を総称して「木質バイオマス」といい、再生可能エネルギーの一つとして注目を浴びている。おがくず、薪、木質チップ、木質ペレット等。

自社の今後の活動としても、地場に根を張った活動をしたい。

【今後のまちづくりへの提案】

青梅市に不足しているものとして、市民の一体感、共通の話題があげられる。

青梅市は、童謡「お山の杉の子」が生まれた町。実際、青梅市内の人工林には豊富にスギが蓄積されている。

(歌碑) <http://sabasaba13.exblog.jp/13001432/>

(現在の歌詞)

<http://www.mahoroba.ne.jp/~gonbe007/hog/shouka/oyamanosugi.html>

(白黒映像) <http://www.youtube.com/watch?v=09ZAqgdrN3A>

この豊富な資源を活かすことで、産業創出・雇用拡大・地域活性化に結び付けられる可能性は十分ある。

具体的には、木質バイオマス利用施設が圧倒的に不足しているので、行政から率先して導入を図って欲しい。

木質バイオマスの利用機器は初期投資額が高額であることから、民間事業者への普及が進まない現状があり、普及啓発・利用拡大のためにも、先導事例として、公共施設等への導入が有効である。

一方で、民間への普及拡大に対する支援策(技術的、資金的)も非常に重要である。また、青梅市にどのような資源(人、事業者、木質バイオマスなど)がどこに分布しているかを把握することは重要で、事業創出につながる基本情報となる。

青梅市は、街と山の境目の地域なので、山林資源の利用(木造建築・チップ・ペレット・薪)や、奥多摩地域と山と街をつなぐ取り組みを支援して行って欲しい。

【自由意見】

問3で記載した童謡の歌詞を今一度捉え直し、青梅市のテーマソングとしてはどうか。

歌詞の5番にあるように、スギの多面的なマテリアル・エネルギー利用を進める。

歌詞の6番にあるように、青梅マラソンをはじめとするスポーツの町づくりを進める。

そして、歌詞の4番にあるように、子どもがすくすく成長し、山は立派な杉山が育つような人と自然が調和したまちづくりを目指す。

地域の特色をぜひ打ち出してほしいと思います。

(お山の杉の子をテーマソングにするだけなら、一銭もカネはかからないでしょうし)